

牛久：学校周辺に見る自然

第22号 牛久二中

2012年7月27日発行

＜ ナンテンが、まだ咲いています。 ＞

牛久二中のプールとグラウンドの間で、7/18、ナンテンの花がまだ咲いていました。もう1週間以上たつので、終わっているかもしれません。



7/18、あまり人目につくこともなく、まだ盛んに咲き続けていたナンテン。



さて、花はふつう、雌しべ、雄しべ、^{かべん}花弁、ガクからできています。では、左の写真から、一つの花にそれらは何個ずつあるのでしょうか？雌しべはまん中に1本。その^{まわり}周りに雄しべが6本。ここまではいいですね。花弁とガクは、3枚1組で、内側から外側に向けてたがいちがいに計30枚ほどが着いていきますが、どれも白くて同じ形なので、どこまでが^{まよう}花弁なのか迷うかもしれません。花弁とガクを合わせて「花被（かひ）」とよぶので、このようなときは全体で「花被」とすればよいのですが、外側の小さいのは早くに落ち内側の6枚ほどが残って^{はんとん}反転してくるので、内側6枚が「花

ナンテンの花。花弁とガクの違いがはっきりせず、「花被（かひ）」とよぶ。花弁、それより外側が「ガク」に当たるのでしょうか。咲き終わって雌しべだけになった花のつけ根に見える横しま^{もよう}模様は、「花被」の落ちたあとです。写真にはまたつぼみのもの、花弁が反転し開花中のもの、雄しべがしおれ花弁が落ちているもの、雄しべも落ちて雌しべだけになったものといろいろな^{だんかい}段階の花が写っていますので、くらべてみましょう。



花みつを吸うクマバチ。右の移動途中の写真から、体じゅうに花粉をつけて別の花に運ぶのが分かる。



写真のように花弁を反転させ突きだした雄しべから花粉を食べたり、雄しべのつけ根でみつをなめたりしていたツマグロコシボソハナアブ。名前の通り腰が細く、ジガバチに擬態(ぎたい)しているといわれる。

花には、いろいろな虫がみつや花粉^{かふん}を求めてやってきます。この日は、クマバチとミツバチ、ハナアブの仲間が2種類来ていました。何度もお話してきましたが、花もみつや花粉^{うばわれ}を奪われるだけでなく、虫たちの体に花粉をつけて、それを別の花まで運ばせているのです。虫たち^{りよう}を利用して、よい種子を確実に^{しんか}つくれるように進化したと考えられています。



葉の裏にかくれたササグモ(左)と、花のかげに身をひそめるコハナグモ(右)。じっと、えものを待っている。

さらに、それらの虫たちをねらって、クモなどのハンターもやってきます。葉の裏や、花の中に身をひそめて、えものが来るのをじっと待っていました。1本の木があると、葉を食べたり、花のみつや花粉を求めていろいろな虫がやってきます。そしてさらに、それらの虫たちを食べる動物も。葉に穴があいていたり、花が咲いて、よい香り^{かおり}を出していたりしたら、何か虫などが来ていないか探してみましょう。おもしろい生き物を見つけたら、夏休み明け、教えて下さいね。【理科支援員：宮内】